

第15回蕨の会「嵐山溪谷紅葉探訪」報告

2019年12月4日

塚田道明（9組）

お天気に恵まれた12月4日（水）10時10分、同期10名が東武東上線小川町駅（埼玉県比企郡）に集合した。

メンバーは上原昇、関賢治（2組）、原田義則（3）、成澤文和、丸山暢久（4）、塩川明男（6）、神宮進（10）、中山正光、岡田修（11）と筆者（塚田）の面々。

今回の幹事は、目的地の近く（嶋山町）に居を構える原田君にお願いした。

〈午前〉

小川町の主な名産品には地酒、ワイン、和紙がある。歩き始めて気づいたのは、空き家が多いのとカタカナと英語だけの新しい店が多いことであった。危機感がもたらす町おこしなのだろうか。

最初に訪れたのは、平成2年に全国新酒鑑定評価で金賞を受賞した晴雲酒造。そこで古い醸造設備の倉見をした後、名酒「小川地酒」（15度）と秋季限定ひやおろし「無為」（17度）の試飲を楽しみ、最後に店前で集合写真を撮った。

次にそこから徒歩10分の有機野菜食堂「わらしべ」（NHK Eテレ「ふるカフェ系ハルさんの休日」のセットで使われた）で、軽い昼食を。その間、中曽根元首相の死去に端を発した国葬に関わる話をはじめ、それぞれのうんちく話に花が咲いた。

〈午後〉

昼食後、駅に戻り、10分ほどバスに揺られ嵐山溪谷へ向かう。展望台までの遊歩道で写真を撮りながら武蔵嵐山（らんざん）の紅葉を楽しんだ。ちなみに「嵐山」の由来は昭和初期に本田清六博士が訪れた時に、その美しい景観が京都の嵐山（あらしやま）に似ていることから付けたとのことである。ところどころ木の間から差し込んでくる太陽光線を照らされる紅葉の色の艶やかには目を奪われた。

次は、何時来るか分からないバスを待たず30分ほど歩き、菅谷館跡にある県立嵐山史跡博物館に向かい、ここでは説明書やビデオなどで戦国大名の軍役、食料や軍備品の調達方法などを学んだ。

〈夕方〉

博物館に隣接している鎌倉時代の有力武士畠山重忠の住居跡を散策しながら武蔵嵐山駅まで戻り、電車で10分の東松山駅で下車。駅前の「ひびき庵3号店」に疲れた足を運ぶと、朝からの万歩計は2万歩を指していた。打ち上げの宴は成澤会長の乾杯の音頭で始まり、2時間5千円飲み放題の「味噌だれ焼きトンコース」に舌鼓を打った。飲み放題の中には高級純米大吟醸「鏡山」（川越産）も含まれ、早速グラスで何杯もお変わりする飲み助もいた。最後には成澤会長から5年先までの開催場所の提案があり、原田幹事に感謝しつつ、19時お開きとなった。

最後に一句 《同期会 紅葉に染まり ワンチーム》

（2019年12月5日記）

【写真1：東武東上線小川町駅に集合】



【写真2：小川町、晴雲酒造にて（試飲後）】

前列左から原田、成澤、後列左から岡田、塩川、中山、塚田、関、神宮、丸山



【写真3：嵐山溪谷を流れる槻川の水没した飛び石 増水のため対岸に渡れず】



【写真4：嵐山溪谷の紅葉】

【写真5：嵐山溪谷、槻川橋にて】





【写真6：菅谷館跡、畠山重忠像前】



【写真7：打ち上げは東松山駅前の名物黒豚焼きトンの店「ひびき庵」にて】
左から 関、神宮、塩川、岡田、成澤



左から 塚田、原田、丸山、上原、中山

